

広島県感染症発生動向月報

[広島県感染症予防研究調査会]

(平成 29 年 12 月解析分)

■ 今月のトピックス ～「日本脳炎」について

本年 10 月及び 11 月に、広島市内の医療機関から、日本脳炎患者の届出が各 1 件ありました。本県では、平成 18 年以来、10 年ぶりの発生となります。

来年の蚊の活動期に向けて、感染予防対策に心がけましょう。

■ 「日本脳炎」とは

【潜伏期間】 6～16 日

【症 状】 数日間の高熱，頭痛，嘔吐などで発病し，急激に，光への過敏症，意識障害（意識がなくなること），けいれん等の中枢神経障害（脳の障害）を生じます。

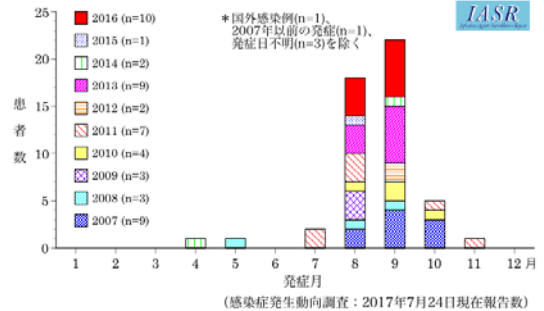
【発 病 率】 感染しても発病しない場合がほとんどですが，過去の報告では感染者およそ 100～1,000 人に 1 人が発病したとされています。

【致 死 率】 発病した場合は 20～40%とされています。

【そ の 他】

- ・日本脳炎は，蚊（主にコガタアカイエカ）が媒介する感染症で，過去の発生事例では，大半が 8～9 月に発生しています。
- ・ヒトからヒトへの感染はなく，また感染者を刺した蚊に刺されても感染することはありません。

図 2. 日本脳炎の発症月別患者報告数，2007～2016年 (n=50*)



■ 予 防 方 法

【蚊に刺されないようにしましょう】

- ・コガタアカイエカの活動時間帯（夜間）の外出を避ける。
- ・戸外では，皮膚の露出を避ける，虫除けスプレー等を活用する。
- ・蚊が屋内に侵入しないように網戸，蚊取り線香等を使用する。

【ワクチンを接種しましょう】

- ・予防接種により，日本脳炎の罹患リスクを減らすことができます。
- ・定期予防接種の標準的な期間は，3歳で2回，4歳及び9歳で各1回です。
- ・平成7年4月2日から平成21年10月1日に生まれた方については，予防接種を受ける機会を逃していることがあります。詳しくは，お住まいの市町の予防接種担当課にお問合せください。



■ 「コガタアカイエカ」について

- ・農村地域で見られる蚊で，水田や沼地に生息しています。
- ・夕方から夜間にかけて活発に活動します。
- ・飛行距離は概ね 2 kmとされていますが，8 kmほど移動した報告もみられます。



コガタアカイエカ
(提供元「国立感染症研究所」)

2 疾患別定点情報 【速報値】

(1) 定点把握(週報)五類感染症

平成29年11月分(平成29年11月6日～平成29年12月3日:4週間分)

No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号
1	インフルエンザ	627	1.36	0.47	↑	11	ヘルパンギーナ	27	0.09	0.08	↓
2	RSウイルス感染症	335	1.16	1.64	↓	12	流行性耳下腺炎	59	0.20	0.61	→
3	咽頭結膜熱	109	0.38	0.56	↗	13	急性出血性結膜炎	0	0.00	0.02	
4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	727	2.52	1.88	↗	14	流行性角結膜炎	65	0.86	0.94	↗
5	感染性胃腸炎	1,447	5.02	10.64	↗	15	細菌性髄膜炎	0	0.00	0.01	
6	水痘	130	0.45	1.01	↗	16	無菌性髄膜炎	3	0.04	0.03	
7	手足口病	302	1.05	0.50	↘	17	マイコプラズマ肺炎	22	0.26	0.30	↑
8	伝染性紅斑	5	0.02	0.25		18	クラミジア肺炎	0	0.00	0.00	
9	突発性発しん	100	0.35	0.45	↗	19	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	1	0.01	—	
10	百日咳	3	0.01	0.03							

(2) 定点把握(月報)五類感染症

平成29年11月分(11月1日～11月30日)

No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号
20	性器クラミジア感染症	41	1.86	2.23	↗	24	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	75	3.57	4.21	→
21	性器ヘルペスウイルス感染症	22	1.00	0.77	↗	25	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	8	0.38	0.60	
22	尖圭コンジローマ	11	0.50	0.57	↗	26	薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0.00	0.03	
23	淋菌感染症	21	0.95	1.03	↗						

※「過去5年平均」:過去5年間の同時期平均(定点当たり)

※報告数が少数(10件程度)の場合は発生記号は記載していません。

※感染性胃腸炎(ロタウイルス)は、平成25年10月14日から届出対象となったため、過去5年平均データはありません。

発生記号(前月と比較)

急増減疾患!!(定点当たり前月比2倍以上増減)			
○急増疾患	インフルエンザ	(0.18 → 1.36)	↑
	マイコプラズマ肺炎	(0.11 → 0.26)	↗
○急減疾患	RSウイルス感染症	(2.40 → 1.16)	↓
	ヘルパンギーナ	(0.24 → 0.09)	↘
急増減			↑ ↓
増減			↗ ↘
微増減			↗ ↘
横ばい			→
			1:2以上の増減
			1:1.5～2の増減
			1:1.1～1.5の増減
			ほとんど増減なし

定点把握対象の五類感染症(週報対象19疾患、月報対象7疾患)について、県内177の定点医療機関からの報告を集計し、作成しています。

対象疾病No.	内科定点	小児科定点	眼科定点	STD定点	基幹定点	合計
	1	1～12	13, 14	20～23	15～19, 24～26	
定点数	43	72	19	22	21	177

3 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況 【速報値】

類別	報告数	疾患名(管轄保健所)
一類	0	発生なし
二類	42	結核(42)〔西部保健所(3), 西部東保健所(7), 東部保健所(9), 広島市保健所(13), 呉市保健所(4), 福山市保健所(6)〕
三類	1	腸管出血性大腸菌感染症(1)〔福山市保健所(1)〕
四類	25	A型肝炎(1)〔北部保健所(1)〕, つつが虫病(21)〔西部保健所(9), 西部東保健所(2), 東部保健所(1), 広島市保健所(9)〕, レジオネラ症(2)〔東部保健所(1), 福山市保健所(1)〕, 日本脳炎(1)〔広島市保健所(1)〕
五類全数	22	アメーバ赤痢(1)〔福山市保健所(1)〕, ウイルス性肝炎(E型, A型除く)(1)〔北部保健所(1)〕, カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症(3)〔西部保健所(1), 呉市保健所(1), 福山市保健所(1)〕, 劇症型溶血性レンサ球菌感染症(2)〔広島市保健所(1), 福山市保健所(1)〕, 後天性免疫不全症候群(3)〔広島市保健所(3)〕, 侵襲性肺炎球菌感染症(3)〔東部保健所(1), 広島市保健所(1), 福山市保健所(1)〕, 水痘(入院例)(1)〔西部保健所(1)〕, 梅毒(8)〔東部保健所(3), 北部保健所(1), 福山市保健所(4)〕